

常任委員会行政調査報告

【教育福祉常任委員会】

《幼保小中一貫教育》

調査地 愛知県 阿久比町

調査項目
・ 幼保小中一貫教育
・ 子育て支援施策 他

調査地の概要

面積二四km²、人口二万五千人のコンパクトな都市。平成十八年度より「一貫教育」制度を導入。保育園八園、幼稚園一園、小学校三校、中学校一校の施設はそのままに、義務教育終了の十五歳時点で、あるべき生徒像を目標に、各施設の運営・連携を行っている。

【調査のまとめ】

関連する教育施設が非常に狭いエリアに集中しており、わが町とは物理的に条件が異なるものの、「一貫教育」導入各施設の統合ではなく、導入の理念及び、施設間の意思統一を重視したソフト

重視型運営になっていた。無論、関係者の負担を考慮すれば、同一施設内での運営が理想だが、厳しい地方財政下、箱物建設の財政負担を軽減できる点は評価できる。

一方、制度導入にあたり、理想の十五歳像を、学力体力、生活力、自己管理能力など各分野の個別研究会で検証し、一方、制度説明会、意見交換会など住民との頻繁な会合の機会を確保するなど、基本方針確立までに、相当の時間、労力、予算が必要となる。



阿久比町 子育て支援センター

《子育て支援医療制度》

調査地 愛知県 高浜市

調査項目
・ 子育て支援施設
・ 公設民営保育施設 ほか

調査地の概要

面積十三km²、人口四万

四千人と人口密度が非常に高い。近年自動車産業で発展。平成二十年度より、県の補助制度を補完する形で現行の「こども医療費助成制度」を導入。対象者は中学校卒業までの子どもで所得制限なし。就学前の子どもの入院・通院及び小中学生の入院医療費の自己負担額は県の制度で全額助成。小中学生の通院医療費の自己負担額につき、償還払いにて、市が単独で三分二の助成を行う。

【調査のまとめ】

中学卒業までの医療費補助制度はわが町でも検討課題である。高浜市の単独事業部分は、受益者が一定額（三分の一）負担し、申請行為が必要な償還払いとすることが、完全無料化、現物給付による、医療費の肥大化を回避する有効な施策となっていた。

総務経済常任委員会調査報告

農村民泊 ◎大分県宇佐市安心院町 日本の女性がとりもつ農家休暇！ 日本のおかあさん百選に安心院から三名



・安心院町のグリーンツーリズムは、日本の発祥の地。
・子供たちの学校からの農家民泊体験宿も多い。
・都市の人を「お客さま」と呼ぶことはない。お互いが認め合った交流が原点！
・米、ブドウ、ワインなどの栽培があくまでも基本です。
(写真：NPO法人安心院町グリーンツーリズム研究会提供)

総務経済常任委員会は、さる七月、福岡県宇佐市安心院町の「農家民泊」、いわゆるグリーンツーリズム（農家民泊など）の調査を行った。

・調査の概要

農村の新しい生き方の可能性を示す言葉としてグリーンツーリズム（農家民泊）という活動を調査した。

視察先の安心院町は、人口が一人から八千人へと高齢化。ぶどう、ワイン、スッポンの産地。
・農家民泊の特長
一、安心院町の人材マッ



・宇佐市は大分県北部に位置し、南は湯布院、東は、豊後高田市に接し、人口62千人。宇佐神宮があり、高付加価値農業や自動車技術産業なども展開されている。

二、女性の人が中心となつて、農家民泊を実践。
三、納屋などを極く簡単に改造し、お客さんを受け入れている。

四、町の行政からの補助金は、農家も望んでいないことは、自立性がある。
五、農業に軸足を置いたグリーンツーリズム。

・まとめ

農村の新しい生き方としての、この農家民泊は、農業、女性の活躍のためにも研究すべきである。

総務経済常任委員会調査報告

循環のまちづくり ◎福岡県大木町 ごみを資源として活かす！ 子供の時代につけを残さない



生ごみも発酵資源化へ



メタン発酵槽（中温湿式）



農地の液肥散布

総務経済常任委員会は、さる七月福岡県大木町のごみ資源活用施設の調査を行った。

・調査の概要

大木町の生ゴミや、し尿、浄化槽汚泥などをエネルギーや肥料へ変換し、地域の中で循環活用する一体型施設システムを調

査した。
シメジ（全国二位）、イチゴ、エノキ、花ごぎの産地。

・循環システムの特長

一、九州大、佐賀大、熊本大などの産学官の共同研究システム事業。
二、メタン発生装置、液肥タンク、液肥散布車両

学習施設などでプラント構成する処理施設である。
三、日七十七〜二十一で建設し十一億円
四、生ごみの資源化、生ごみのメタン発酵、し尿液肥の全量農地散布。
五、液肥散布も「普通肥料登録し、特別栽培米「環のめぐみ」として地域温泉館で販売。

六、廃食用油、太陽光発電の花油なども取り組む。

・まとめ

子供の時代につけを残さないという決意と実践は、見習うべきである。



大木町は福岡県南西部に位置し、久留米市、柳川市、筑後市と境をなしている。町全体が平坦な田園地帯で約1万5千人。町の14%は堀割（クワ）。